

◆企画名	2023年度関西大学ピア・コミュニティ活動報告会
日程	2024年2月27日(火) 10:30~16:10
場所	千里山キャンパス第2学舎 BIG ホール 100
参加者数	53名(ピア・サポーター11名、研修生11名、シニア・サポーター2名、TA2名、本学教職員10名、他大学生15名、他大学教職員2名)

目的

2023年度の活動を振り返り、他コミュニティの活動状況を把握し、ピア・サポーター及び研修生同士のコミュニティ間の交流を深めるとともに、反省等を共有し、今後の活動に活かすこと。また、他大学の活動状況を知り、交流することで、新たな気付きや発見を得て、ピア・サポートの在り方を改めて見つめ直し、大学の枠組みを越えた繋がりを形成することを目的とする。

内容

- ・活動報告会(ピア・コミュニティ70分/他大学50分)
各コミュニティ、他大学それぞれ10分から15分の活動報告を行い、その後質疑応答を行った。
他コミュニティがどのような活動を行ってきたかを知ることによって、自分のコミュニティに活かし、ピア・サポートの今後のあり方や活動についても考えていく。
他大学の報告については、大学の枠を越えた交流や経験、知識の共有を行った。
- ・他大学交流会(80分)
【テーマ】新しく加入した学生に対して、現在活動しているメンバーとして、どのようなサポートができるか

新しく加入した学生が、加入する前と後で活動に対してギャップを感じ、モチベーションを維持できないまま活動から離れてしまうことが少なくない。それに対して、現在活動を行っているメンバーはどのようなサポートができるか、どのような工夫をすれば「自分から参加したい」と思えるような組織づくりができるかについて話し合うグループワークを行った。
当日のグループワークに関しては、各コミュニティから選出してもらった他大学交流会担当のメンバーが中心となってファシリテーターを務めたが、他のメンバーも話しやすい雰囲気づくりに協力した。
- ・キャンパスツアー(30分)
他大学、特に遠方からの大学向けに関西大学内を30分かけて案内を行った。
ツアーはKUブリッジが先導した。

効果

- ・各コミュニティや個人ごとに役割があったことで、自分の役割を通して成長を感じることができた。また、所属するコミュニティのメンバーの普段とは違う姿や役割を全うする姿を見ることができた。
- ・全体を通して、それぞれが臨機応変な対応を意識できていた。
- ・他大学同士だけではなく、他コミュニティ同士でも親交を深められた。
- ・報告会での質問に対して、2022年度と比較して代表等が一人に対応するのではなく、他のメンバーも含めて複数人で回答をしたコミュニティもあり、各メンバーの意識の高さが伺えた。
- ・2022年度の改善点を活かし、リハーサルをしっかりと行ったことで、想定していたスケジュール通りに進行することができた。
- ・2022年度と比較して、活動報告会自体を「やるべきこと」という視点だけでなく、どうすれば参加者が楽しく参加できるかなど、参加者の目線を意識した運営ができた。
- ・事前に交流会での意見発表者が決まっていたため、進行もスムーズに進められたほか、時間削減にもなった。
- ・各団体、各コミュニティの活動概要を知る良い機会となった。
- ・他大学から、特に勧誘や新メンバー募集について参考になる情報を聞き取ることができた。

改善点

○準備

- ・誰がどの役割かが全体にはっきりと示されておらず、メンバー（特に重役）がその都度確認しながら運営、準備などを行っていた。
- ・各種役割が可視化できていなかったため、不明点を代表等が直接確認していく場面が度々あった。
→誰がどの役割であるかをすべてのメンバーが把握できるよう表にするなどして可視化する。
- ・当日運営メンバー同士でやり取りする方法がなかった。
→Teams や LINE などのチャットでやりとりができるよう用意する。

○活動報告

- ・質問を切るタイミングに基準がなく、切りづらい雰囲気があった。
→回答数や時間等で事前に質問を切るタイミングを決めておく。
- ・発表の際にメモをする人とならない人ではばらつきがあり、また資料を事前配布していなかったのも手持ち無沙汰になっている人がいた。
→事前にメモをする用紙や資料の配布、または準備の呼びかけなどを行う。
- ・質疑応答においてその場で質問に答えていたため、発表者の負担が大きかった。
→回答時間の削減、回答の精度向上のため、発表用スライドが提出された時に、運営本部で事前に想定質問を作成し、回答を各コミュニティで作成してもらう。
- ・進行とタイムキーパー、その他運営メンバーとの連携があまりできていなかった。
→前述のように Teams や LINE などのチャットでやりとりができるよう用意する。
- ・質問しているピア・コミュニティの学生は上位年次生が多かった。
→質問をより積極的にできるよう後輩に呼びかけを事前に行う。また、前述のように事前に質問を想定した準備を行う。
- ・当日に司会等の資料共有が必要となったメンバーもいたことで、結果的に資料の共有に手間取ってしまった。
→誰にどんな資料が手元に必要かを事前に確認する。
- ・マイク回しを行う人からは手を挙げている人が見えづらく、結果的に質疑応答に時間がかかってしまった。
→発表者（質疑応答担当者）が質問者を指名する方が効率的である。
- ・予定では、ピア・コミュニティ 80 分（20 分×4 コミュニティ）、他大学 40 分（20 分×2 大学）の報告時間をとっていたが、ピア・コミュニティの全コミュニティが予定より早く終了し、他大学の報告が予定より長引いた。
→2024 年度はあらかじめピア・コミュニティの報告時間は 15 分程とし、他大学の報告時間を長めにとっておく。

○交流会

- ・交流会の全体の流れを丁寧に説明したものの、前方のスライドでは表示していなかったため、時間配分等を確認する術がなかった。
→交流会での流れについては、常時スライドで表示しておく。
- ・グループを結合した際に人数が多く、必然的に話せる人とそうでない人に分かれてしまった。
→ファシリテーターを例年下位年次生の役割として任せることを前提とすると、10 人以上でのグループにおいて、ファシリテーションを行うことは心理的負担が大きい。したがって、5～8 人程度の人数で調整する必要がある。

○昼食

- ・昼食の際に、大学ごと・コミュニティごとで固まっている方々もいたため、交流を促進するという意味では工夫が必要だった。
→昼食の座席配置を事前に決め、休憩時間でも他大学間の親睦を深められるように工夫する必要がある。

○キャンパスツアー

- ・キャンパスツアーの内容についての資料があると、よりわかりやすいと感じた。
- ・活動報告会が始まってから自己紹介の時間がなく、キャンパスツアー前に自己紹介をするという流れを他大学の方が提案してくれたが、スケジュールの関係上その時間を設けることができずにキャンパスツアーが始まってしまったため、キャンパスツアーをコミュニケーションの機会に活用できなかった。
→自己紹介する時間を昼食やキャンパスツアー前に設けておくことで、よりコミュニケーションがとれる楽しい雰囲気のカンパスツアーになると考える。
- ・キャンパスツアーの時間がやや足りない印象であったため、2024 年度もキャンパスツアーを実施するのであれば 40 分程度の時間を確保する。
- ・列をもう少し整備した方が良かった。
→先導する KU ブリッジ以外のコミュニティメンバーで列を整備する。

感 想

全体として、2022 年度と比べて大学の垣根を越え、和気あいあいとした雰囲気で進めることができた印象だった。他大学との交流という点でも、昼食の時間や交流会の時間を利用して連絡先を交換している方を見かけたため、交流促進という点では大変満足感のある企画であったと思う。活動報告についても、積極的な質問があがっており、これらも 2022 年度と比べて有意義な時間として過ごすことができた。

準備についても、例年は代表等の上位年次生の指示に従って下位年次生が動く印象であったのが、下位年次生自身も自分の役割を理解して行動しており、活動報告会としてだけではなく、この一年を通して各メンバーの成長をお互いに感じられる良い機会であったと思う。

